

2016

日

1 31

日時: 2016年1月31日(日) 13:30~16:30(開場13:00)

会場: じばさん三重 6F〈ホール〉

定員: 100名 / 資料代500円 ※学生無料

要予約 お申し込み方法は裏面をご覧ください。

生物多様性COP10から5年・長良川河口堰運用20年

伊勢湾流域圏の再生 シンポジウム

基調報告

高山 進 伊勢三河湾流域ネットワーク代表世話人

講演

「伊勢湾の環境の今」

石原 義剛 海の博物館館長

伊勢湾流域圏の再生シンポジウム

◎パネリスト

●「伊勢湾の流れと答志島の漂着ごみ」

千葉 賢 四日市大学教授

●「ウミガメが上る浜づくり」

森 一知 四日市ウミガメ保存会代表

●「木曽三川の魚たちと伊勢湾」

向井 貴彦 岐阜大学准教授

◎コーディネーター

三石 朱美

国連生物多様性の10年市民ネットワーク



主催

伊勢・三河湾流域ネットワーク
中部の環境を考える会
四日市ウミガメ保存会
よみがえれ長良川実行委員会

生物多様性COP10から5年・長良川河口堰運用20年

伊勢湾流域圏の再生 シンポジウム

出演者紹介



高山 進

伊勢・三河湾流域ネットワーク代表世話人

1949年生まれ。大阪府枚方市出身。2015年三重大学退職。専門は「地域環境管理学」で、地域で生じる環境問題の解決のための政策、参加のあり方に関心がある。2005年から伊勢・三河湾流域ネットワーク共同代表、2009年から生物多様性条約市民ネットワーク共同代表、2012年から現在まで志摩市里海創生推進協議会会長として基礎自治体による沿岸域統合管理の政策作りに携わる。



石原 義剛

海の博物館館長

1937年三重県生まれ。1960年早稲田大学卒。1969年会社を退職し、海の博物館創設に当たる。1971年海の博物館開館。海を守るSOS save our sea運動をスタートさせる。現在は、持続可能な漁業を3千年以上続ける『海女文化』振興のため、ユネスコ世界無形文化遺産登録を目指す活動につくす。三重大学客員教授。



千葉 賢

四日市大学教授

1957年生まれ。東京都出身。1979年東京大学工学部卒業。1997年四日市大学環境情報学部教授に着任以降、閉鎖性海域の流動と水質関連の研究に従事。2004~2008年、三重県地域結集型共同研究事業「閉鎖性海域の環境創生プロジェクト」研究リーダーを務める。現在は伊勢湾の環境動態の研究を行っている。2015年度は三重県と共同で漂着ゴミと海底泥の調査を実施中。



森 一知

四日市ウミガメ保存会代表

1968年5月20日生まれ。47歳。三重県四日市市出身。40歳の時に、ふるさとに恩返しがしたいと、「四日市ウミガメ保存会」を結成。月一度の海岸清掃には、年間1500人が参加する。本業は、市内で、無農薬野菜を生産販売する農家。



向井 貴彦

岐阜大学准教授(魚類学)

1971年生まれ。滋賀県出身。生物の多様性を遺伝子解析と野外調査によって研究し、現在の生物群集の成り立ちと現状を知るとともに、人為的な環境変容からの保全を視野に入れた研究を行う。汽水域や淡水域の魚類を中心とした水辺の動物を主な研究対象とする。「岐阜市版レッドリスト」作成では魚類を担当。愛知県の長良川河口堰検証では最適運用検討委員として活躍している。



三石 朱美

国連生物多様性の10年(UNDB)市民ネットワーク

2010年に名古屋で開催された生物多様性条約COP10を契機に、同条約の関連会議に継続して参加、世界中の先住民族や地域コミュニティの代表者と共に、生物多様性が地域の文化や生活にもかけがえのない影響をもたらし、尊重されるべき事を発信している。2004年より日本環境法律家連盟(JELF)事務局で勤務。沖縄ジュゴン米国訴訟などにも取り組んでいる。

予約申し込み／問い合わせ

資料準備などのために、以下のところに事前予約をお願いします。

①申込者名 ②参加人数 ③電話番号 をお知らせください。

伊勢・三河湾流域ネットワーク

✉ offer@isemikawa.net

四日市ウミガメ保存会

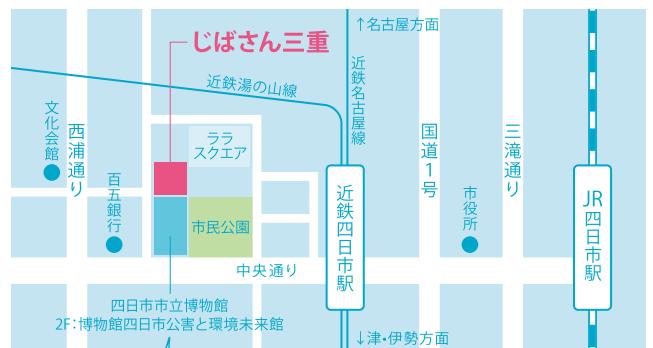
✉ kazutomo0520.com@docomo.ne.jp

よみがえれ長良川実行委員会 ※ホームページよりお申し込みいただけます。

🌐 <http://nagaragawa.jimdo.com/>

☎ 090-1284-1298 (武藤)

[会場のご案内] 所在地: 三重県四日市市安島1丁目3番18号



近畿四日市駅より徒歩3分
JR四日市駅より徒歩20分／車で5分
東名阪自動車道「四日市I.C.」より約20分
※近隣の有料駐車場をご利用ください。